

ベトナム調査報告

井上順孝

「デジタルミュージアムの運営と関連分野への展開」のプロジェクト遂行の一環として、2013年2月17日より22日まで、ベトナムのホーチミン市、及びタイニン省でベトナムの宗教文化に関する調査を実施した。

18日はタイニン省に車で赴き、ベトナム土着の宗教であるカオダイ教の本部を訪問した。「カオダイ教」は漢字で表現すると「高台教」であるが、正式には大道三期普度教という。1926年にレ・ヴァン・チュンを指導者として設立された。現在はタイニン省を中心に200万人以上の信者がいるとされている。

儀礼は男女分かれてなされ、繰り返し祈禱を行う。儀礼の間は本部の正面は通行が禁止される。

教会の正面には天眼と呼ばれる大きな左目が青色の大きな球に描かれている。これはカオダイを象徴している。

礼拝の様子は見学者も中で見ることができる。興味深いのは、はいるときは男女別々の入り口がもうけられているのであるが、中にはいってしまうと、男女が分けられているわけではないことである。

タイニン省にはカオダイ教の支部の建物をあちこちでみかけた。外観が似たようなつくりになっているので、すぐそれと分かる。

19日には、ホーチミン市内のカトリック寺院、仏教寺院の永厳寺を訪問し、信者の礼拝の様子などを撮影した。

仏教寺院では生きものを放生して供養するという光景が見られた。雀のような小鳥が籠にいっぱい入れてあり、それを参拝者が買っ

てから放つのである。亀が用いて同様のことをやっている寺院もあった。これにより功德が得られるという信仰である。ベトナムの仏教は南部に一部上座仏教の寺院があるが、大半が大乗仏教である。ベトナムはかつて漢字を使用していた時代があり、中国宗教の影響を強く受けているからである。

ホーチミン市の郊外にある霊山仏石寺も車で見学にでかけた。ここはちょうど日本の浅草のような雰囲気もあって、人々の日常生活に溶け込んだ信仰のあり方を感じ取ることができた。いろいろな仏像の中に、観音像があった。この像にはピンクの衣が着せられており、これに触るとご利益があると考えられていて、参拝者がひっきりなしに衣で手や顔などをぬぐっていた。当然のことながら、やがて衣は黒ずんでくるのだが、ときおり真新しい衣に着せ替えていた。

20日は、ホーチミン市内の博物館を見学したが、ベトナム戦争がベトナム宗教に与えた影響についての資料もあった。

21日は、ホーチミン市内のヒンドゥー教寺院とモスクを訪問し、それぞれの施設の管理にたずさわっている人に設立の経緯を聞く機会を得た。また礼拝の様子、施設等について撮影を行った。

ヒンドゥー教寺院は、それほど大きくはないが、一般の人も自由に参拝できる。寺院を管理しているらしい女性にいくつか質問をしたが、気軽に答えてもらった。

モスクは200~300人程度はお祈りできそうな大きさであった。男性が礼拝する部屋と女性が礼拝する部屋が別々になっていた。数



カオダイ教本部



カオダイ教の礼拝の様子



ホーチミン市内のモスク



仏教寺院

人のムスリムがすわっていたが、礼拝しているというよりは休息しているという感じであった。ムスリムは礼拝の前に身を清めることになっている。このモスクの前には、そのためのプールのような設備もあった。

訪れた時期はちょうど旧暦での新年（テト）が終わったばかりのときであった。その名残りの飾りなどが町中でいくつか見られたが、日程の都合でテトの様子そのものが見ら

れなかったのが非常に残念である。

なお現地では本学の大学院に留学生として在籍していたファム・レ・ハイ・イエンさんに通訳をお願いした。イエンさんは、日本の民間信仰とくに祖霊信仰と、ベトナムの民間信仰の比較研究に関心を持っている学生であったので、非常に丁寧な説明を受けることができた。